2023年 3月期　第2四半期
決算説明資料

株式会社　浅　沼　組
東証プライム市場
証券コード：1852

この資料には、当社の業績予測並びに将来の見通しに関する記述がございます。
これらの記述は、現在入手可能な情報及び将来に影響を与える不確実な要因に係る仮定に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく記載と異なる結果になる可能性があります。

目次

ページ	項　　目
Ｐ３	2023年3月期　連結　第２四半期　前期比・計画比
Ｐ４	2023年3月期　連結　第２四半期　進捗
Ｐ５	2023年3月期　第２四半期　受注状況
Ｐ６	中期３ヵ年計画の主な施策
Ｐ７	リニューアルの現況
P8	『ReQuality』の推進
P9	リニューアル技術の高度化
Ｐ10	ASEAN地域におけるリニューアル強化
P11	協力会社との協働推進
P12	ＤＸ推進について
P13～14	エコフレンドリーASANUMA２１の取り組み①②
Ｐ15	サステナビリティの推進
Ｐ16	Topics

2023年3月期 連結 第２四半期 前期比・計画比

（単位：億円）

主な経営指標	2022/3期	2023/3期			
	２Q実績	２Q計画	２Q実績	前期比	計画比
受注高	590	—	**683**	93	—
完成工事高	592	636	**656**	64	20
完成工事粗利益	55.8	56.4	**63.8**	8.0	7.4
完成工事粗利益率	9.4%	8.9%	**9.7%**	0.3P	0.9P
営業利益	15.1	12.5	**21.7**	6.5	9.2
親会社株主に帰属する四半期純利益	9.6	12.0	**21.4**	11.8	9.4

2023年3月期 連結 第２四半期 進捗

（単位：億円）

主な経営指標	2022/3期			2023/3期		
	２Q実績	実績	進捗率	２Q実績	計画	進捗率
受注高	590	1,366	43.2%	**683**	1,416	48.2%
完成工事高	592	1,344	44.0%	**656**	1,433	45.8%
完成工事粗利益	55.8	131.4	42.5%	**63.8**	143.4	44.5%
完成工事粗利益率	9.4%	9.8%	—	**9.7%**	10.0%	—
営業利益	15.1	48.4	31.3%	**21.7**	56.1	38.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	9.6	37.5	25.5%	**21.4**	41.2	51.8%
配当（配当性向）	—	363円（78.1%）	—	—	*191円（74.8%）	—

＊当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2023年3月期の1株当たりの配当予想については、当該株式分割後の金額を記載しております。

2023年3月期 第２四半期 受注状況

（単位：億円）

		2022/3期	2023/3期	
		２Q実績	２Q実績	前期比
淺沼組	建　　築	505	**523**	18
	官　庁	115	**90**	△25
	民　間	390	**433**	42
	土　　木	78	**109**	31
	官　庁	65	**65**	△0
	民　間	13	**44**	31
	建 土 計	**584**	**632**	**49**
	官　庁	180	**155**	△25
	民　間	403	**477**	74

海外子会社　計	7	**51**	44

連　　結	590	**683**	93

中期３ヵ年計画の主な施策

Asanuma

― 基本方針 ―　浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ「変化に挑戦」

外部環境変化への挑戦	★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により堅調に推移する国内維持・修繕事業投資
	1. 『ReQuality』リニューアルブランド戦略の推進 2. リニューアル技術の高度化 3. ASEAN地域におけるリニューアル強化
	★ 建設分野における生産労働人口の減少
	1. 協力会社との協働推進 2. ＤＸ推進
	★ 非財務経営活動(ＥＳＧ・ＳＤＧｓなど)による企業評価向上の機運
	1. エコフレンドリーASANUMA21の推進 2. サステナビリティの推進

リニューアルの現況

目標	2024年3月期に建築リニューアルの営業利益を連結営業利益の35%に

建築リニューアル　計

（単位：億円）

	2022/3期	2023/3期	
	2Q実績	2Q実績	前期比
営業利益シェア	32.2%	28.5%	△3.7P

国内　建築リニューアル

受注高	98	108	10
完成工事高	78	67	△11
営業利益	4.8	1.9	△2.8
営業利益シェア	31.7%	9.0%	△22.7P

ASEAN　建築リニューアル

受注高	7	51	44
完成工事高	8	42	33
営業利益	0.1	4.2	4.1
営業利益シェア	0.6%	19.5%	19.0P

『ReQuality』の推進

名古屋支店改修PJ

心身の健康に配慮した空間デザイン

建物の利用者の健康や快適性を評価する
「**WELL認証 ゴールド**」を取得
（築30年のオフィス全体の改修での
認証取得は日本初）

循環型の環境配慮ビルとして長期的な
視点をもったデザイン

グッドデザイン・ベスト100に選出
（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）

リニューアル技術の高度化

耐震補強提案

○地震モニタリングシステム

・地震時の建物の揺れを即時に分析・診断
・クラウドシステムを活用しいつでもどこからでも建物の診断結果にアクセス可能
・地震発生後の建物について耐震調査・工事の必要可否を判断し必要な場合は耐震補強を提案

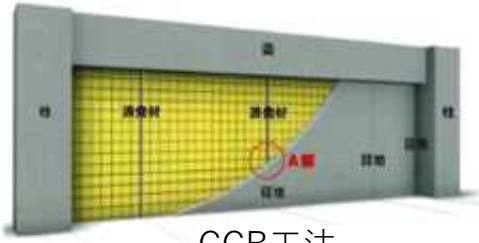
IotスマートセンサーIotスマートセンサー

地震の揺れを分析し、通知

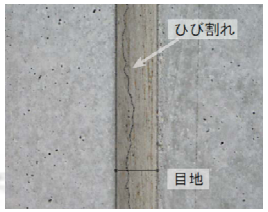
長寿命化による低炭素化へ

○長寿命化のための技術力

・コンクリートのひび割れを制御（目地へ誘発）し、壁面や床面にひび割れを起こさせずきれいな状態を保存でき、長寿命化に寄与（CCB工法）



CCB工法



床CCB工法

・CCB工法を適用した壁面の目地にひび割れを分散させる材料（PRS）を充填し、壁面に貼った壁紙へのしわを最小化

PRS 目地充填工法

PRS 目地充填材

ASEAN地域におけるリニューアル強化

（単位：億円）

海外子会社の現況					
シンガポール					
名　称	取得	事業内容	2023/3期　２Ｑ実績		
			受注	完工高	営業利益
SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.	2018年10月	建物塗装・修繕工事	21	14	0.1
EVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD	2022年1月	建物メンテナンス 電気・設備工事	30	28	4.1

協力会社との協働推進

建設キャリアアップシステム（CCUS）の推進	○建設業の魅力向上に向けて、建設技能者の処遇改善、キャリアパスの明確化、施工能力の見える化を目的としたシステム ・サポート事務局設置期間延長　2021年10月1日 ～ 2023年3月31日 ・オンライン説明会実施済み（2021年9月から12月に6回）
淺沼マイスターの推進	・協力会社の職長の中から淺沼マイスターとして選任 ・奨励金の授与を行い賃金面からの処遇を改善 ・対象要件としてCCUSへの登録を次年度認定更新より追加
協力会社との研修	○協力会社で構成する弥生会の会員の技術者を対象に研修会を実施 ・サステナビリティ基本方針、人権方針、調達方針の説明 ・ＶＲや安全帯による安全研修
作業所生産性向上策表彰及び発表会開催	○各作業所における協力会社との協働による生産性向上策を募集表彰、発表会を開催（第4回を2022年10月28日実施） （コスト削減、工期短縮、新技術導入など69編）

ＤＸ推進について

ＤＸ推進委員会の取り組み

① BIM・CIM関連の導入推進

・導入拡大に向け社員の研修
・導入対象案件を拡大するための方策の検討
・設計段階だけでなく施工時における活用拡大に向けた方策検討

3Dスキャナによる既設空間測量

②タブレットを使用した効率化

・工事写真の整理、一元管理
・配筋の検査
・仕上げの検査

タブレットを利用した配筋検査

③他社との共同開発

・建設RXコンソーシアム：ロボット、パワースーツなど
・共研21：配筋検査

④業務の電子化

・契約書、注文書、請求書などの電子化：CI-NETの導入拡大へ
・建退協の事務手続きの電子化：ＣＣＵＳとの連携拡大へ

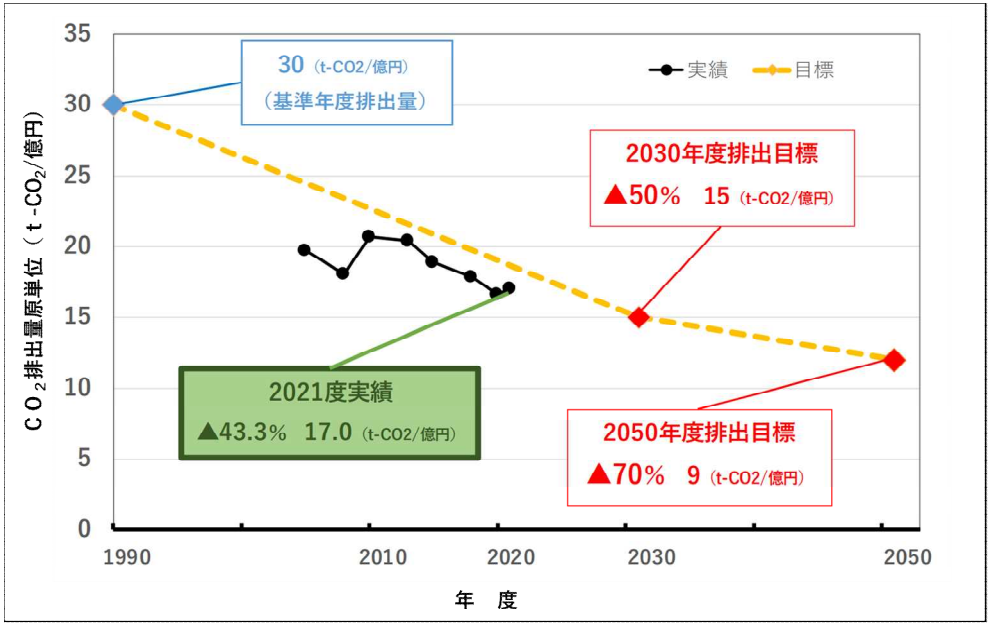
エコフレンドリーASANUMA２１の取り組み①

長期ＣＯ$_2$削減目標（スコープ１＋２）

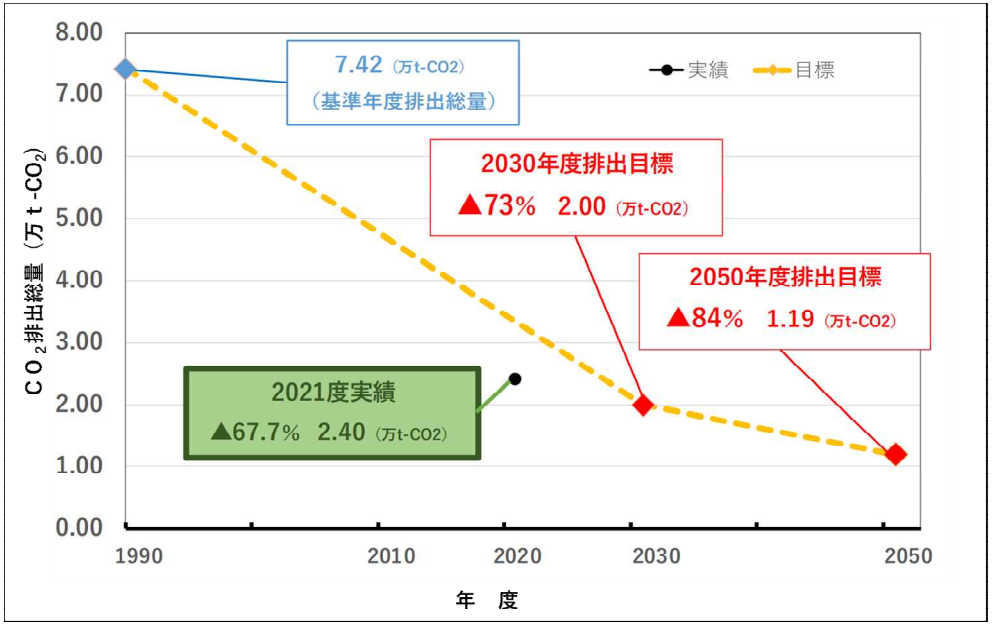
○ 施工高１億円当たりのＣＯ$_2$排出量を１９９０年度比で
２０３０年度までに５０％、２０５０年度までに７０％削減」（原単位目標）

○ＣＯ２総排出量を１９９０年度比で
２０３０年度までに７３％、２０５０年度までに８４％削減」（総量目標）

CO2削減の推移



原単位目標（2021年度更新）



総量目標（2022年度より）

スコープ３について	・算定方法を検討中、今後削減目標の設定の検討に入る予定。 ・スコープ３目標設定後にスコープ１＋２の目標を再設定予定。

エコフレンドリーASANUMA２１の取り組み②

作業所における様々な取り組み

CO2削減

取り組み①

CO2削減率50％の
環境配慮型コンクリート
を施工に導入

取り組み②

再生可能エネルギー100％の電力を新規着工作業所全てに導入へ

再生可能エネルギー供給の概念図

2021年度　564,291 kWh

生物多様性の保全

設計施工案件の作業所全てでＣＡＳＢＥＥ（建築環境総合評価システム）による評価を取り入れ、
Ａランク評価を５０％以上の作業所で獲得を目指す

取組例

生物多様性簡易評価ツール「いきものプラス」を採用し、作業所に隣接する恩知川や緑地等の植樹の選定などを行い、さまざまな環境保全対策に対応

サステナビリティの推進

○「サステナビリティ推進委員会」の主な取り組み

① 環境経営推進に向けた取り組み

環境経営推進に向け、ワーキンググループを設置し技術面から検討
技術発表会での「環境技術賞」創設

② ＴＣＦＤ（気候関連財務情報開示タスクフォース）関連活動の推進

気候変動関連の中長期的目標
原単位目標に総量目標を追加（次ページ詳細）

③人権方針、調達方針策定

サステナビリティ基本方針に加え、人権方針、調達方針を策定し、HPに開示

④パートナーシップ構築宣言

取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、
新たなパートナーシップを構築することを、
「発注者」側の立場から宣言するもの。

パートナーシップ構築宣言

⑤その他の検討課題

サステナビリティ経営における「KPI」設定と、中核人材や多様性の確保、
人材育成方針や人権に配慮した施策の策定に向けた検討

Topics

ReQuality関連

グッドデザイン賞を受賞

浅沼組の名古屋支店改修PJ

浅沼組の名古屋支店改修PJ（プロジェクト）が、日本デザイン振興会主催の2022年度グッドデザイン・ベスト100に選出された。

改修後の名古屋支店外観

築30年の名古屋支店を環境配慮型ビルへリニューアルしたもの。既存躯体を活用し、自然の光、風へのアクセシビリティを高める改変を行うとともに、土や木などの自然素材を最大限活用している。

審査評価では、循環型の環境配慮ビルとして長期的な視点を持って、実践可能なプロセスまで緻密にデザインされていることなどが高く評価された。

2022/10/17　日刊建設工業新聞

WELL認証ゴールド取得

浅沼組の名古屋支店改修

浅沼組は、名古屋支店の改修プロジェクトが米国の健康建築性能評価制度「WELL Building Standard（WELL認証）」のゴールドランクを取得したと発表した。築30年以上経過したオフィスビルの全体改修で同ランクを獲得した事例は国内初という。

7月28日付で取得した。WELL認証は人間の健康に焦点を置いた国際的な環境評価システムで、「空気」「水」「食物」「光」「運動」「温熱快適性」「音」「材料」「心」「コミュニティ」の計10項目のコンセプトで評価を満たす必要があり、「プラチナ」「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」の4段階でランク付けされる。

名古屋支店全景

同社は2021年、リニューアル事業ブランドを「ReQuality」と名付け、リニューアルに注力している。そのフラッグシップに位置付けられた名古屋支店改修プロジェクト（名古屋市中村区名駅3―3―44）の規模は、S造地下1階地上8階建て塔屋1層延べ2779平方㍍。建築家の川島範久氏と共同で設計し、21年9月に竣工した。自然通風・自然採光が容易になる設計をはじめエレベーターの削減、土や水などの自然素材を積極的に取り入れるといった取り組みを実践した。

今後も同プロジェクトで得た知見を生かし、健康で快適な空間づくりの実現を提案するとしている。

2022/9/26　日刊建設通信新聞

その他

「変化に挑戦」体現

浅沼組

浅沼組は、2022年度の技術発表会を開いた。コロナ禍における対応として、大阪本店と東京本店の2会場に関係者が参加し、当日の発表映像や資料を広く社内ネットに公開して情報共有を進めた。

冒頭、あいさつした浅沼誠社長は「現行の中期3カ年計画の2年目で、ちょうど折り返し地点に差し掛かっている。基本方針に『変化に挑戦』を掲げた意味を社員一人ひとりが改めて自分自身に問い掛けてほしい」と呼び掛けた＝写真。

社員投票と審査によって選定された社長賞など各賞は次のとおり。

〈社長賞〉

▽タワーマンションのフルPC工法での計画と実施。

〈優秀賞〉

▽調整池内における泥水式推進工の到達施工▽寒冷地の造成工事における工期短縮目的のICT積極活用の施工▽建逃げする鉄骨建方時の安全性の検討。

〈環境技術賞〉

▽名古屋支店改修工事における「ReQuality」実現のための構造架構の実例。

2022/8/26　日刊建設通信新聞

性能証明を取得

PRS工法適用拡大へ

浅沼組など14社研究会

鉄筋挿入型ひび割れ制御工法協会（CCB工法協会）にあるPRS工法研究会（代表企業＝浅沼組）は、RC・SRC造建物におけるコンクリート躯体の目地充填に使うポーラスレジンサンド（PRS）の建設材料技術性能証明を取得した。第三者評価機関による〝お墨付き〟を得たことで一層の適用拡大を狙う。

PRS工法は、コンクリート躯体のひび割れを誘発する目地に珪砂とファイバー樹脂を混合して製造したPRSを充填することで、クロス貼りなどの仕上げ層における亀裂やしわを防ぐ技術。CCB工法と併用することでより確実に直貼りクロス仕上げ面の変状防止に役立つという。

工法研究会の構成企業は、▽浅沼組▽熊谷組▽西松建設▽NIPPO▽飛島建設▽大日本土木▽長谷エコーポレーション▽東急建設▽五洋建設▽三井住友建設▽共立建設▽青木あすなろ建設▽松井建設▽奥村組土木興業――の14社（7月現在）となっている。

2022/9/2　日刊建設通信新聞

MEMO

Asanuma

誇れる歴史がある
創りたい未来がある

MEMO

Asanuma

誇れる歴史がある
創りたい未来がある

株式会社 浅沼組

2022年11月16日

お問合せ先
コーポレート・コミュニケーション部
Tel　06-6585-5500　　Fax　06-6585-5556
Mail　asanuma_ir@asanuma.co.jp